

# 秋田県比内町における地鶏の飼養と加工・流通

田 中 圭 一

キーワード：秋田県比内町 比内地鶏 飼養農家 自然環境

## I はじめに

畜産、なかでも食用鶏の地理学的研究にはブロイラー養鶏に関するものがある。たとえば、長坂(1988)などである。しかし、地鶏に関する地理学研究はない。

本研究は、比内地鶏の主産地である秋田県比内町とその周辺を対象地域とし、比内地鶏産業を飼養・加工・販路の面から考察することを目的とする。研究の方法としては、聞き取り調査と野外観察を主とし、現地で入手した文献資料も用いた。

## II 比内町における比内地鶏産業の概要

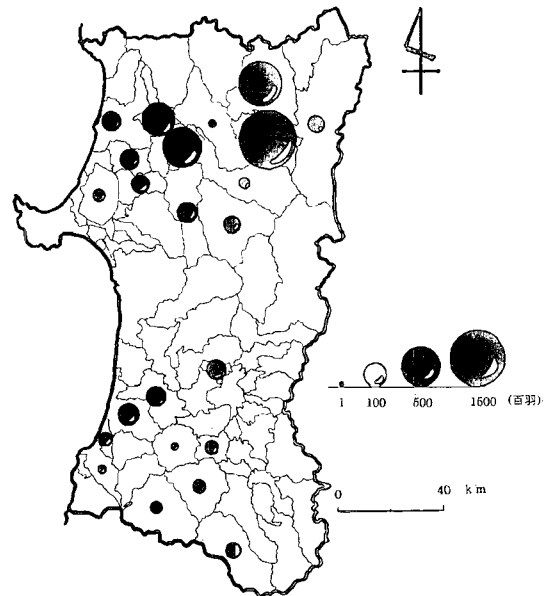
比内地鶏は、比内鶏を父方に、ロードアイランドレッド種を母方とした一代交雑種である。比内鶏は元来、秋田県比内地方で飼育され優れた肉味を持つが、天然記念物の指定を受けており、実用面での能力も低かった。そのため、1973年度より秋田県畜産試験場を中心として比内鶏の利用が試験された。その結果、比内地鶏が誕生した。

比内町における比内地鶏生産は、1987年に「比内町比内地鶏生産部会」が設立され本格化した。それまでは比内地鶏生産は小規模で、比内町の特産品とは呼べなかった。素雛導入羽数は順調に増加し、2002年における素雛導入羽数は163,000羽で、市町村単位では秋田県第1位である(第1図)。

## III 比内町における地鶏の飼養と農業経営

### 1. 種鶏場

「比内町比内地鶏生産部会」は、JA あきた北の組織である。比内町における比内地鶏生産には、JA あきた北の存在が欠かせない。比内町には全部で25戸の比内地鶏飼養農家が現在あり、その全てが比内地鶏生産部会に所属する。JA あきた北は、そ



第1図 秋田県における比内地鶏の市町村別素雛導入羽数(2002年)

(秋田県農畜産振興課資料より作成)

の農家全ての意見を汲み入れて年間出荷計画を立てる。その計画に沿い、JA あきた北は大館市釈迦内にある黎明舎種鶏場に雛を発注する。黎明舎種鶏場で産み落された卵は、同じく大館市御成町にある黎明舎孵化場に運ばれ、孵化する。黎明舎は、県北のほぼ全ての比内地鶏飼養農家に素雛を供給する、全県一の素雛供給会社である。その後、素雛は、JA あきた北のトラックで比内町の各飼養農家へと運ばれる。

### 2. 飼養農家

比内町における比内地鶏飼養の最低限の環境条件は、今回の聞き取り調査から定義すると、鶏舎と放し飼い圃場を確保出来るだけの土地を持っていること、住宅地から離れていること、鶏の清潔な飲料水が確保出来ることの3点である。住宅地からの隔離は、特に夏場に鶏舎から発する独特の臭気、鶏の鳴

第1表 秋田県比内町における比内地鶏飼養事例農家の経営形態（2003年）

農家番号	比内地鶏飼養開始年	年間出荷羽数(千羽)	他の収入源	労働力構成				飼養開始最大の動機	鶏舎に汲み入れる水の水源	鶏舎建築以前の土地利用法
				世帯主	後継者	後継者の妻	その他			
1	1986	14	なし(専業)	○				C	沢、井戸	牛舎
2	1988	7	稲作、畑作、会社員(後継者)看護婦(後継者の妻)	△	○	△		C	井戸(トルマリン石)	畑(ビニルハウス)
3	1990頃	10	稲作、会社員(後継者)	○	○		△	B	湧水	水田
4	1990	8	稲作、葉タバコ栽培	○	△	△	△	A	湧水	水田
5	1995	6	稲作、会社員(後継者、後継者の妻)	○	○	△	△	A	井戸	水田
6	1996	13	なし(専業)	○			△	B	井戸	養蚕、畑
7	2000	7	稲作、縫製業	○				A	沢	水田
8	2000	2	パート(世帯主・後継者の妻)、会社員(後継者)	○	△	△	△	A	沢	水田(借地)
9	2001	5	なし(専業)	○				B	井戸	豚小屋と畑
10	2002	8	大工(後継者・世帯主)		△	○		A	沢	畑
11	2003	2	稲作、しいたけ栽培(後継者夫婦)	○	△	△	△	A	井戸	水田

注) A：役場・部会からの薦め B：畜産への興味

C：その他(農家番号1は親を引き継いだ、農家番号2は町おこしのため)

(2003年聞き取り調査より作成)

育成区分	初生 7日齢	28日齢	70日齢	100日齢	120日齢	150日齢
育成区分	幼雛期	中雛期	大雛期	仕上げ期		
鶏舎	育雛施設	管理鶏舎と放し飼い草地の融合				
飼料	餌付飼料 幼雛期飼料	中雛期飼料	大雛期飼料	仕上げ飼料		
備考						雌が産卵を開始

第2図 秋田県比内町における比内地鶏の飼育暦（2003年）

注) 各給与飼料は、飼料中の粗タンパク質の量が異なっている。

(聞き取り調査とJAあきた北宮農部資料より作成)

声などへの苦情が予想されることによる。

比内地鶏飼養農家には、鶏舎と住居が隣接する農家と、離れた農家がある。鶏舎と住居が隣接する飼養農家のほとんどは、その住居に他者の民家が隣接していない。飼養農家は、その地域的条件に合わせて鶏舎の場所を決定する。

聞き取りできた全11農家の経営事例(第1表)をみると、兼業で比内地鶏を飼養する農家が多い。専業への不安が拭えない農家が多いことと、畜産に興味がなくは専業は難しいことを示している。飼養労働力の構成をみると、世帯主を中心とし、家族が総出で作業を手伝う農家が多い。このことで改めて、比内地鶏飼養が大変骨の折れる作業であることがわかる。

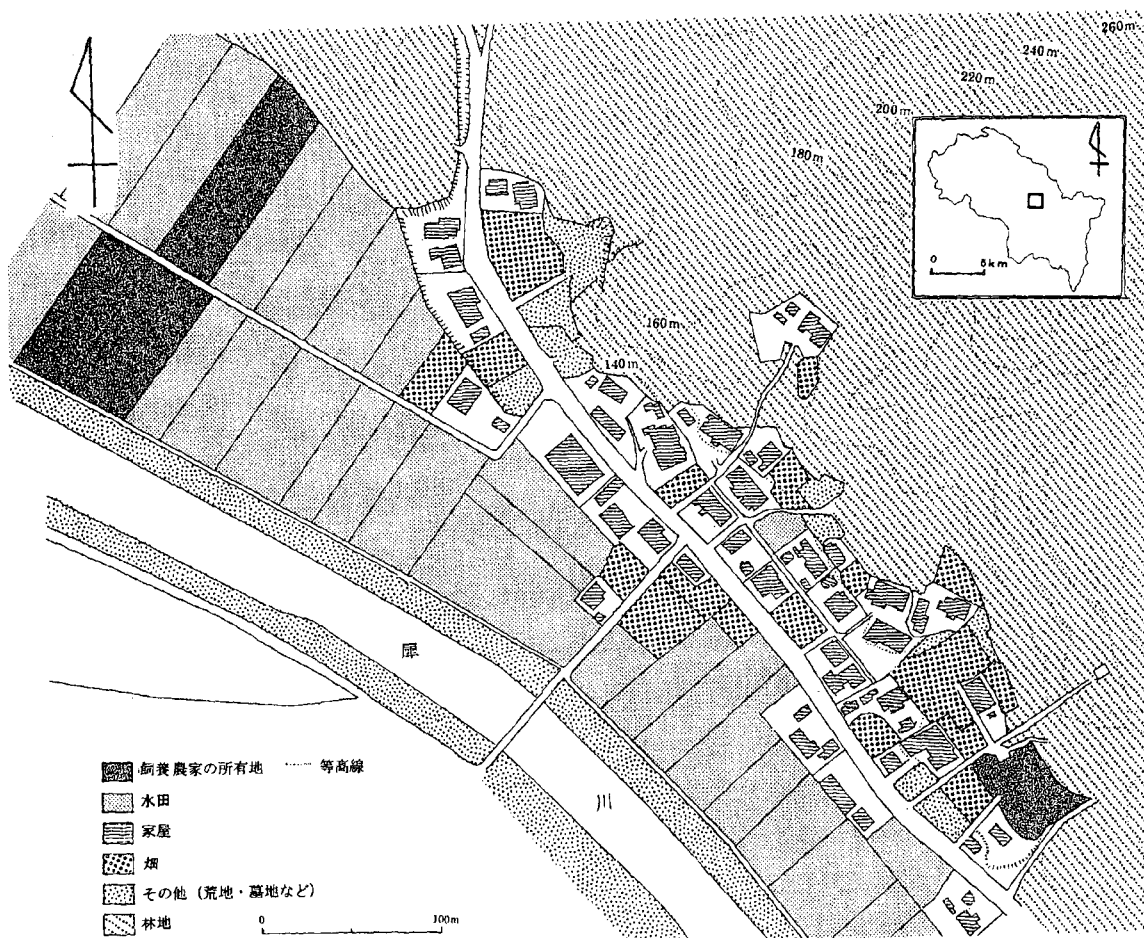
比内地鶏の飼養地は、減反政策による稲作の余剰耕地である場合が多い。鶏舎に汲み入れる地鶏の飲

料水は、標高が高い場所では湧水や沢、低いところでは井戸水を水源として利用する。

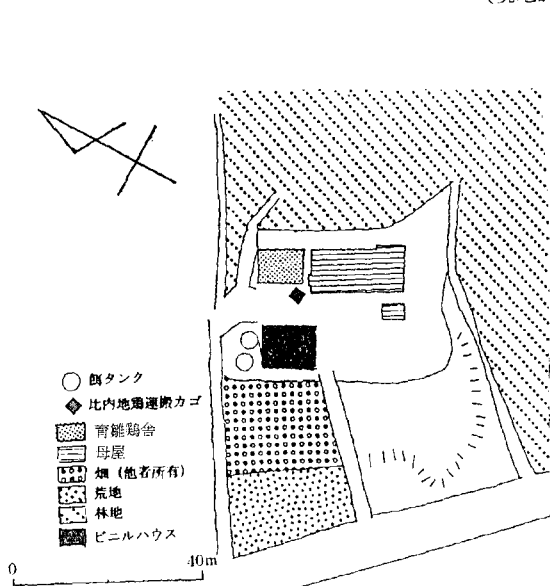
飼養開始の動機としては「役場・部会からの薦め」が多い。「畜産への興味」と答えた人も役場や生産部会と全く無縁ではなく、生産部会発足後に町全体で比内地鶏生産を発展させようとしたことがわかる。

比内町の比内地鶏飼養農家は、基本的にはJAあきた北が作成した手引に沿って比内地鶏を飼養する(第2図)。手引通りに飼養しない農家や、部会が定めた出荷先以外へ出荷した農家は、生産部会から除名される。

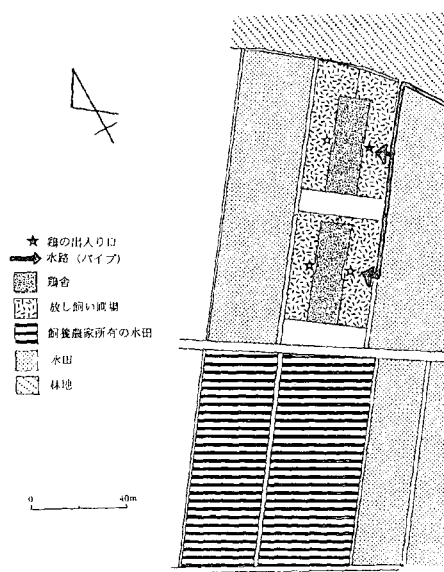
第3図はある事例農家周辺の土地利用を示す。ここは周囲を山林に囲まれた集落で、この事例農家は、母屋と鶏舎が離れた比内地鶏飼養農家の典型例である。この農家は育雛鶏舎を母屋の傍に建てている(第4図)。幼雛期は比内地鶏の体が弱く、飼養上もっ



第3図 秋田県比内町森合地区における比内地鶏飼養事例農家所有地近辺の土地利用 (2003年7月)  
 (現地調査および1:2,500 比内町計画平面図 (1986年修正) より作成)



第4図 秋田県比内町森合地区における比内地鶏飼養農家の土地利用 (母屋周辺) (2003年7月)  
 (現地調査および1:2,500 比内町計画平面図 (1986年修正) より作成)



第5図 秋田県比内町森合地区における比内地鶏飼養農家の土地利用 (鶏舎周辺) (2003年7月)  
 (現地調査および1:2,500 比内町計画平面図 (1986年修正) より作成)

とも手がかかることから、育雛鶏舎のみ母屋の傍に建てる飼養農家が多い。

28日齢を過ぎた比内地鶏は、出荷まで飼養される鶏舎に移される。鶏舎内には給餌器や給水器、止まり木などがある。鶏舎は直射日光が入らないよう遮光幕で覆われている。比内地鶏は寒さには比較的对応できるが、汗腺が無いため暑さには弱い。鶏舎周辺（第5図）には、比内地鶏が適度な日光浴をしながら自由に運動するに必要な、放し飼い圃場がある。また、水が近くの沢からひっぱられ、放し飼い圃場に流れ込んでいる。

比内町の比内地鶏飼養農家はより良質の比内地鶏を育てるため、日頃から野菜・果物を餌として与える。他にも、手引には記されていない事を行っている。飼養上の良案が思いついた時は、各々が勝手に行わず、定期的部会などで情報を提供し合う。良いものは部会員みんなを取り入れる。比内町の比内地鶏飼養農家は、「比内町産比内地鶏」という銘柄を高水準で保つことに、町全体で臨んでいる。

#### IV 比内町における地鶏の加工・流通

##### 1. 加工施設と流通経路

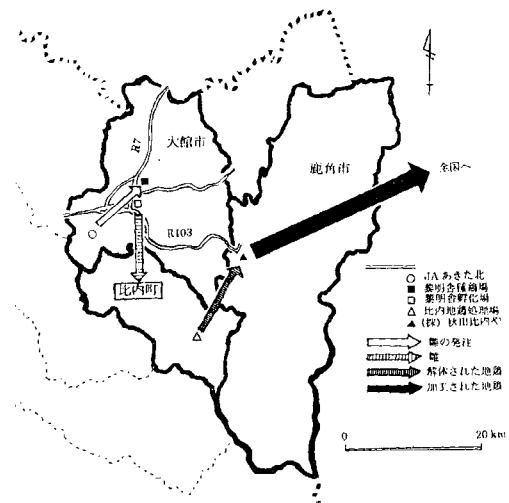
飼養農家は、150日齢を過ぎた比内地鶏を、指定日に比内町大葛の比内地鶏処理場へ運ぶ。比内地鶏処理場は、比内町で飼養された全比内地鶏を扱い、他市町村で飼養された比内地鶏は一切扱わない。そこで比内地鶏は処理・解体される。その中の8割が、鹿角市にある株式会社秋田比内や（以下、(株)秋田比内や）へ外部の運送業者により、運ばれる。

(株)秋田比内やは、鹿角市に事務所と加工場を構える比内地鶏の加工・販売会社である。1995年の開業以来、事業規模は急速に拡大した。比内町における近年の比内地鶏出荷量の増加に、(株)秋田比内やの存在は欠かせない。

比内町の比内地鶏処理場からの地鶏の9割が、全国の(株)秋田比内やのチェーン店へ運ばれる(第6図)。運送に関しては外部の運送業者に全て委託している。ただし、近隣市町には自社便で届ける。

##### 2. 大館市における比内地鶏生産との対照

大館市は秋田県において、比内町に次ぐ第二の比内地鶏生産地である。大館市の生産農家は3戸であり、うち二つは会社経営である。生産農家はそれぞ



第6図 「比内町産比内地鶏」の主要な流通経路  
(2003年7月、9月の聞き取り調査より作成)

れ黎明舎へ雛を発注する。JA あきた北は大館市の比内地鶏生産には関わらない。

大館市には処理販売を行う会社が2社ある。大館市の生産農家は、飼養した比内地鶏を大館市内のその2社に全て持って行くわけではない。処理販売の2社も、様々な地域の飼養農家と取引をしている。

#### V むすび

比内町の河川・山林に恵まれた自然環境は、比内地鶏を飼養するために必要不可欠である。「比内町比内地鶏生産部会」には、比内町の全比内地鶏飼養農家が所属し、生産過程は標準化されている。また、農家は飼養情報を絶えず交換している。生産部会の名のもとに農家同士が繋がりを強く持つことで、比内町は「比内町産比内地鶏」を高水準で保つことに成功している。

現地調査では、JA あきた北営農部、比内町役場農林課をはじめ多数の方々にご協力頂いた。本稿作成では篠原秀一先生に終始貴重なご助言を頂いた。末筆ながら、深く感謝致します。

#### 文 献

長坂政信(1988):岩手県におけるプロイラー産業の発展と産地形成. 地理学評論, 第61巻, 239-257.